

J-クレジット制度
排出削減プロジェクト・
森林管理プロジェクト
検証報告書

プロジェクトの名称：

A重油ボイラから薪ボイラへの更新

検証機関名	ペリージョンソンレジストラ クリーンディベロップメントメカニズム株式会社
-------	---

発行日 2021 年 2 月 8 日

1 検証機関の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

※ 「判断の根拠」に関する項目については、根拠としたモニタリング報告書等の章番号、該当頁等を記載するとともにその妥当性について記載すること。(以下、本文書を通じて同様)

機関名称	ペリージョンソンレジストラ クリーンディベロップメントメカニズム株式会社
プロジェクトに関係する者との 利害抵触	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
判断の根拠	<p>① 当社は審査・検証機関として、設備導入や省エネ活動を含む一切のコンサルティング活動を行っていない。</p> <p>② 事前のリスク分析において、当該事業者および支援事業者を含む関連事業者と当社が一般的に容認できない利害関係が無いことを確認している。</p> <p>③ 審査員、レビューワー各々に当該事業者および支援事業者を含む関連事業者と利害関係が無いことを確認している。</p> <p>④ プロジェクト実施事業者に審査員と利害関係が無いことを確認している。</p>

2 プロジェクト実施者の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

プロジェクト代表実施者 ※プログラム型プロジェクトの場合、「プログラム型運営・管理者」を記載すること。	関場建設株式会社
プロジェクト実施者（代表者以外） ※プログラム型プロジェクトの場合、「削減活動の実施者」を記載すること。	—
類似制度における認証の有無 ※今回認証を申請する期間と同一の期間において、同一のプロジェクトに基づく認証を他の類似制度によって受けているか	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

3 検証結果（総括）

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

プロジェクト名、登録番号		A重油ボイラから薪ボイラへの更新 No. 25
適用方法論	方法論番号	EN-R-001Ver.1.0
	方法論名称	バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料又は 系統電力の代替
今回認証を申請する期間 ※実施要綱 1.6 に定められた認証対象期間内に設定されていることを 確認して記載すること。		2016年4月1日～2018年7月31日 <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト登録時に定めた認証対象期間内でありかつ認証済の 期間外である <input type="checkbox"/> 上記期間以外
過去の認証 状況 ※過去に排 出削減量の 認証を受け ている場合 には、各期間 と方法論ご との認証さ れたトン数 を記載する こと。認証回 数の増加に 併せて適宜 行を追加し て記載する こと。	第1回	2014年3月1日～2016年3月31日（86 t-CO ₂ ）
	第2回	年 月 日～ 年 月 日（ t-CO ₂ ）
	第3回	年 月 日～ 年 月 日（ t-CO ₂ ）
	第4回	年 月 日～ 年 月 日（ t-CO ₂ ）
	第5回	年 月 日～ 年 月 日（ t-CO ₂ ）
排出削減・吸 収量 また、複数方 法論の場合 は、プロジェ クトとして の合計値を 記載するこ と。	今回認証を申請 する期間の合計 値（実績値）	100 t-CO ₂
	今回認証を申請 する期間のプロ ジェクト計画書 における排出削 減・吸収見込量 ※プロジェクト計 画書における排 出削減・吸収見 込量の合計値 を、今回認証を	336 t-CO ₂

	申請する期間で 按分すること。	
省エネルギー量 ※省エネルギー等分野の方法論 (方法論番号が EN-S で始まる 方法論のうち廃棄物由来燃料を 使用しないもの) を用いたプロ ジェクトの場合には、今回認証 を申請する期間の省エネルギー 量の実績値を記載すること。 また、複数方法論の場合は、プ ロジェクトとしての合計値を 記載すること。	—	
	検証の基準 ※適用した制度文 書類のバージョ ンを記載するこ と	文書名：実施要綱 Ver.5.0 文書名：実施規程 (プロジェクト実施者向け) Ver.5.1 文書名：実施規程 (審査機関向け) Ver.2.0 文書名：モニタリング・算定規程 Ver.3.8
プロジェクト実施者と 合意した検 証の前提	目的 ※プロジェクトの 実施によって、 モニタリング報 告書における排 出削減量・吸収 量が実際に生じ たことの評価を 行うことも目的 に含めて記載す ること	本検証業務の目的は、J-クレジット制度 (以下、「当該制度」) においてプロジェクト実施者である「関場建設株式会社」が計画し、当該制度に登録された「A重油ボイラから薪ボイラへの更新」(以下、「当該プロジェクト」) について、プロジェクト実施者が作成したモニタリング報告書に記載された情報に対し、当該制度において適用される基準に基づき検証手続きを実施することで、第三者として独立した立場から意見表明を行うことである。
	範囲 ※検証の範囲がプ ロジェクト計画 書及びモニタリ ング報告書の範 囲であることを 記載すること	本検証の範囲は、当該プロジェクトのモニタリング報告書に記載された活動及びプロジェクトへの潜在的、将来的な影響因子を含むプロジェクト関連活動である。

	<p>保証水準の基準 ※検証の結論を意見として表明する際に採用した水準を記載すること</p>	<p>本検証の適用保証水準は、「合理的保証水準」である。</p>
<p>検証手続 ※実地審査の実施有無について記載すること。 ※実施した場合は訪問日を記載すること。</p>		<p><input type="checkbox"/>実地審査を実施した（ 年 月 日に訪問） <input type="checkbox"/>サンプリングで実地審査を実施した（ 年 月 日に訪問） <input checked="" type="checkbox"/>実地審査を実施していない（* COVID-19 感染拡大に伴う対応処置として、文書にて検証を実施した。）</p>
<p>修正・指摘事項及び解決方法 ※4 における結果を総括し、排出削減量・吸収量に影響を与える可能性のある、主な誤り、指摘事項について記載すること。</p>		<p>文書による検証の結果、排出削減量に影響を与える可能性があるもの、あるいは方法論などで適合が求められるものとしての指摘は無かった。</p>
<p>検証結果</p>	<p>検証結果</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>無限定適正 <input type="checkbox"/>不適正 <input type="checkbox"/>意見不表明</p>
	<p>意見・結論 ※4 における結果を総括し、検証結果における意見の理由を記載すること。</p>	<p>ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社（以下、「当社」という）は、当該制度において関場建設株式会社（以下「実施者」という）が計画、実施している「A重油ボイラから薪ボイラへの更新」におけるモニタリング報告書及びモニタリング報告書別紙に記載された情報について検証を行った。検証手続は、当該制度における実施要綱 Ver.5.0、実施規程（プロジェクト実施者向け） Ver.5.1、実施規程（審査機関向け） Ver.2.0、モニタリング・算定規定（排出削減プロジェクト向け） Ver.3.8 及び方法論 EN-R-001 Ver.1.0 に準拠して行った。</p> <p>この検証業務の基準は、業務のリスクを勘案して策定した計画に基づいて、意見表明の基礎となる合理的な保証を得ることを求めている。検証は試査を基礎とし、提出された文書類の確認及びインタビューにより行なわれ、方法論の適用条件への適合状態の維持の確認、ベースライン排出量・プロジェクト排出量・排出削減量の算定方法、データのモニタリング方法、事業の運営・管理体制・管理方法、事業者が採用した仮定、その基礎となるデータの評価の検討も</p>

		<p>含んでいる。これらの手続きにより、当社は意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。</p> <p>当社は、実施者が作成したモニタリング報告書及びモニタリング報告書別紙に記載された温室効果ガス排出削減量情報は、当該制度における温室効果ガス排出削減量の算定及び報告の基準であるモニタリング・算定規定（排出削減プロジェクト向け）Ver.3.8に基づいて作成されており、全ての重要な点に関して適正であると認める。</p>
--	--	---